

ろうさい病院つうしん

病院情報誌 平成18年度 第2号 平成18年8月1日発行

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

「パーキンソン病」

神経内科部長 榊原 敏正



パーキンソン病は難病（特定疾患）に指定されていますが、神経難病の中でも患者数は多く、日常診療でよく見かける疾患の一つです。日本では10万～15万人ほどの患者数とされており、特に高齢者（60歳以上）では100人に1人以上という高率で、高齢化社会を迎えてさらに増加していくことが予想されます。患者さんいろいろな情報を持ってみえて、「パーキンソン病」ではないかと言ってみえる方も結構います。しかし、その診断は意外と難しく、MRI等の画像を含めた臨床検査には異常が無いため、診断はもっぱら臨床所見に頼らなくてはなりません。

パーキンソン病の症状の中核は、振戦、固縮、無動、姿勢反射障害などとされていますが、高齢の方が多く、緩徐進行性のため、振戦以外の症状は忙しい日常診療では、かなり判断しやすい症状と考えられます。また、治療法も、抗パーキンソン剤、外科療法、リハビリテーションなどありますが、いずれも根治療法ではなく、

効果も一定せず、副作用や費用がかさむなどの問題点も幾つかあります。それでも、的確に診断して、うまく指導、治療できれば、経過中のADLの改善には有用で、けっこう満足していただける場合も多いと思います。また、社会的なサポートも必要となりますが、それには介護保険、身体障害者、特定疾患などあります。その場合、申請に必要な書類の記載はかなり専門的知識が要求されます。

パーキンソン病などの神経難病を扱う当科では様々なご相談、ご依頼に対応いたしております。気になる症例などありましたら、お気軽にご相談いただければと思います。



Claud Richerが描いた
パーキンソン病患者

神経内科 医師診察予定表 ◎部長

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
◎榊原 敏正	◎森下 真次 ◎上條美樹子	◎榊原 敏正	◎榊原 敏正 横井 孝政	◎森下 真次 ◎上條美樹子

64列マルチスライスCTについて

放射線科部長 真下 伸一

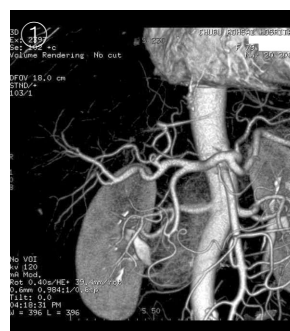


昨年11月に新館が稼働し明るくきれいな環境へと一新されました。その際放射線科の機器もいくつか新たに最新のものが導入されました。今回はそのうちで64列マルチスライスCTについてお知らせいたします。

GE製のもので多列検出器型で最大の64列です。スキャンスピードが極めて早く、上腹部で2-3秒、胸部から骨盤でも1回の呼吸停止でスキャンできてしまいます。患者さんにとっては一般撮影と同じ感覚といえると思います。また、頭尾方向での画像情報が密になるのでCTアンギオの画像が極めてなめらかなものとなり、診断目的の血管撮影をしなくても足りるほどになっております。頭部から足先にいたるまでのあらゆる部位の動脈瘤、動脈狭窄などの評価が可能であり、外来患者さんに普通の検査として使用しております。また逆に範囲を狭めれば極めて薄いスライスでの画像を得ることができますので、詳細な評価が可能になっております（①②③写真参照）。MPR（multi pla-

nar reconstruction）像による縦断像、冠状断像、また斜め断層像も可能ですので腫瘍の広がり診断がより正確になるなどさまざまな利点があります（④写真参照）。

これらの検査の予約方法は単純CTと大きな違いはありませんので（造影剤問診票の記入と目的、部位をお伝えください）充分に、有効に利用していただければ幸いです。



放射線科 医師診察等予定表 ◎部長

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
診 察	石原俊一(午後)	◎真下 伸一		石原 俊一	
CT検査読影	◎真下 伸一	◎真下 伸一	◎真下伸一、澤木明子	◎真下 伸一	◎真下伸一、川井恒
MR検査読影	◎真下 伸一	◎真下 伸一	◎真下伸一、澤木明子	◎真下 伸一	◎真下 伸一
RI検査読影	◎真下 伸一	◎真下 伸一	◎真下 伸一	◎真下 伸一	◎真下 伸一

傷は消毒しない、乾かさない

形成外科副部長 加藤 友紀



ちょっとしたすり傷や軽いやけどなどは、日常よくおこることだと思います。そんな軽い怪我をしたとき、以前でしたら「傷はきちんと消毒して、ぬらさない」「できるだけ乾燥させる」という方法が勧められていましたが、創傷治癒のメカニズムが明らかになってくるにつれ、従来の方法があまりよい方法でないことが分かってきました。

傷の表面にはサイトカインや成長因子などが遊走し、それらが線維芽細胞の増殖を促すことで上皮化が促され

ます。しかし、その表面を消毒薬でこすると、消毒薬のもつ細胞障害性によりそれらの因子が障害を受け、そのためにかえって治癒が遅れるわけです。さらにそれらの創傷治癒促進因子は生きていますので、傷の表面が乾燥してはせっかく遊走してきた因子も死んでしまい、さらに治癒を遅らせることになります。

では、傷の処置はどうしたらよいのでしょうか？

当科でお勧めしている方法は、

① 水道水のシャワーで洗い流す（最近では手術時の手洗いも滅菌水ではなく水道水を用いるようになってきています）



実際にシャワーで傷を洗い流している様子

② 消毒は行わないで、きれいなタオルやガーゼなどで水分をふき取る

③ 創傷被覆材を用いて、傷を乾燥させないように傷を覆う

です。③の創傷被覆材は、ドラッグストアなどでも市販されるようになってきましたが、当院でも褥瘡の治療などで用いている保険が効くものも何種類あります。深い傷など傷の種類によっては、軟膏などを用いた方がよい場合や、手術が望ましい場合もありますので、心配な場合は是非一度形成外科にご相談ください。

形成外科 医師診察予定表 ○副部長

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
○加藤 友紀	奥村 誠子	○加藤友紀 (1.3.5週) 田邊 吉彦 奥村誠子 (2.4週)	○加藤 友紀	奥村 誠子

連携室だより

人事異動

辞職（平成18年5月31日付）

田中 紀子 消化器科医師
國本政瑞沖 呼吸器内科医師
加藤 徳明 リハビリテーション科医師

（平成18年6月30日付）

相田 佳代 消化器科医師
梶田 裕子 皮膚科医師
後藤 美香 腎臓内科医師

（平成18年7月31日付）

浅野斗志男 麻酔科副部長

採用（平成18年6月1日採用）

町田 和彦 呼吸器内科医師
小川 清洋 リハビリテーション科医師
宮本 和幸 救急部医師

（平成18年7月1日採用）

内山 功子 消化器科医師
高崎真理子 皮膚科医師

（平成18年8月1日採用）

棚橋 重聡 麻酔科

転出・転入（平成18年7月1日付）

（転出）岩崎 和博 事務局次長
（転入）永窪喜代二 事務局次長

駐車場について

平成18年7月より、駐車場の整備に伴い100台程多く車を止めていただけるようになりました。

これに伴い、お車でお越しの方々にとって混雑解消につながっております。

中部ろうさい病院 病診連携セミナー開催報告

平成18年度第1回目のセミナーを下記のとおり開催いたしました。

開催日時：平成18年6月21日（水）

19時～20時

開催場所：中部ろうさい病院 新棟2階講堂

出席者：登録医 10名

病院側 30名

セミナー

(1) 院長挨拶

代理 小林 建仁

（中部ろうさい病院副院長）

(2) 講演

演題「虚血性心疾患の診断と治療

～メタボリックシンドロームの関与～」

演者 天野 哲也

（中部ろうさい病院冠動脈疾患部長）

ご多忙の中出席して下さった先生方には、この場をお借りして深くお礼を申し上げます。

ろうさいハートクラブ 次回開催のご案内

循環器科医師によるろうさいハートクラブも、お陰さまで第10回目を迎えることとなります。次回の開催日時が決まりましたのでご案内させていただきます。

開催日時：平成18年9月9日（土）

午後2時から

開催場所：中部ろうさい病院 9階職員食堂

☎地域医療連携室（平日8：15～19：30）
052-652-5950（TEL）
052-652-5716（FAX）

室長：小林 建仁（副院長）
佐野 隆久（副院長）
事務担当：河野奈々・金井久実